

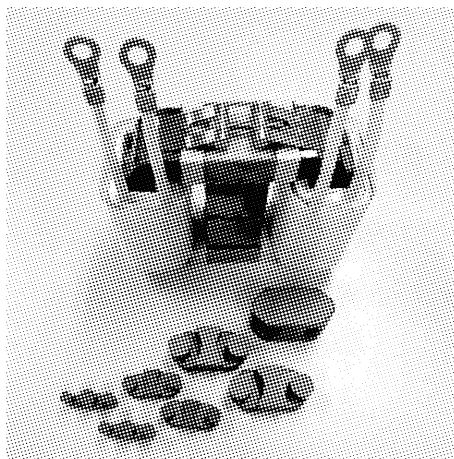
並列リアクター1個に

サンシン電気

PHV給電に採用

サンシン電気（東京都練馬区、石井宏宗社長、03・5987・5511）は二つの並列したリアクター（供給電力を消費・蓄積・放出する巻き線装置）を一つにまとめる技術を開発した。リアクター設置面積や重さを半減させ、コストを3〜4割削減した。プラグインハイブリッド車（PHV）の給電回路への採用を機に、事業全体で初年度2億5000万円の売り上げを目指す。

面積・重さ半減



並列した二つのリアクターを一つにまとめる技術を開発

サンプル価格は容量200Whのコアが300円で、コアとリアクター、電源ユニットの形で提供される。

「E」の字の形をしたリンクコア二つを組み合わせ、リアクターのコアとする。一つのコアに二つのコイルを巻き付けるため、並列リアクターの二つのコアが一つですむ。位相が反転した二つの電流が合わさるため、ノイズが打ち消し合って

半分になる。

家電製品向けフェライト（磁性材料）コアと、重機のモーターや発電システム向けのケイ素鋼板コアを投入した。

電気自動車（EV）の電源は大電流が流れ、対応する電子部品が大きくなる課題があった。電流を抑えて効率を高めるために、並列リアクターを含むインターリーブ（交互配置）方式力率改善回路が採用されている。この力率改善回路のリアクターに採用された。

また、スマートグリッド（次世代電力網）対応の直流駆動家電の電源にも採用されており、初年度は年間30万個程度の生産体制を整える。順次、量産体制を拡充していく。